

岩手県

被推薦者 氏名 生駒 大輔 (いこま だいすけ)

(満 43 歳 昭和 49 年 8 月 14 日生)

## 1 推薦の理由

平成 9 年度に矢巾町立矢巾中学校教諭として着任以来、保健体育の授業において、生徒の意欲の喚起と体力・運動能力の向上のため、常に探究心をもって授業づくりに取り組んだ。

校務分掌として生徒指導部を担当することが多く、生徒指導と保健体育授業をリンクさせ、保健体育の授業を充実させることで生徒の意欲や興味関心を喚起した。情熱的で決して生徒を見捨てない彼の人間的魅力によって不登校生徒が減るなど、生徒を望ましい方向に導いた。

専門とするバスケットボールの指導では、岩手県の専門委員長を 7 年間務め、東北ブロック長も 4 年間務めるなど、運動部活動指導においても一流の指導者である。そのような責任ある立場にあっても、保健体育の授業の充実を常に目指している姿は、他の中学校保健体育教諭の模範となることである。

平成 30 年秋に開催される岩手県小学校・中学校体育・保健体育研究大会・北上大会では、授業者として授業提供する予定である。

## 2 被推薦者の「体育授業」の特徴、指導効果、その成果の汎用性、成果を証明する資料等

平成 28 年 11 月に行われた陸上運動系資質向上支援事業「地区別授業改善研修会」では、授業者を務め、中部教育事務所管内全小・中学校からの参会者に「陸上競技(短距離走・リレー)」の授業を提供した。

この授業は、創意工夫にあふれていた。単元前半の短距離走では、ハードルやラダーによる動きづくり、スタート局面で徐々に上体を起こすための練習・確認「斜めくん」、「リンリンハードル」で加速局面での脚の動きを確認・修正、ピッチを落とさずスピードにのる練習「マーク走」などの工夫があり、生徒は、それら具体的

な教具によって示される技術のポイントを意識して練習すると共に、その教具によって確認できたよい動きや修正点を互いに教え合いながら学習を進めた。単元後半のリレーでは、「見えたくん」でバトンの渡し方・もらい方の練習、「追いかかりリレー用スズランテープ」を使いスムーズなバトンパスへ利得距離の調整・確認、スタートのタイミング練習など、技能を身に付けるために具体的な手立てを講じていた。

また、技術ポイントを明確にし、あまり運動が得意ではない生徒(女子)が、得意な生徒(男子ペア)にアドバイスができる手立てとして「見る視点」を与えたり、生徒同士をつなぐ教師の声掛けを活発に行ったりするなど、勢いのある授業が展開された。

本授業は、「観察者による体育授業観察チェックリスト」(高橋、2000)を活用し、研究協議が行われた。教師の相互作用、学習環境、意欲的な学習、授業の勢いなど、総合的に大変高い評価であった。(総合的評価 4.38、n=68)

## 3 公的な大会・研修会等で発表した授業実践や講習会の講師を務めた講習内容等の概要

神奈川県横浜市で行われた平成 22 年度子どもの体力向上指導者養成研修において「体育理論」に参加し、その後、県内で行われた研修会で講師を務めた。運動やスポーツの多様性、文化としてのスポーツの意義などについて、授業を行う際のポイントを分かりやすく講義した。

## 4 勤続年数 21 年

## 5 教職の略歴

平成 9 年	矢巾町立矢巾中学校	教諭
平成 14 年	花巻市立西南中学校	教諭
平成 19 年	宮古市立第二中学校	教諭
平成 25 年	北上市立北上中学校	教諭